



# カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。2017年からは、2部制にして話者の数を絞り込み、より濃密な会話を目指します。

今回、第1部のテーマは「ファッションと政治」。ヨーゼフ・ボイスやヴィヴィアン・ウエストウッドに影響を受けた新レジデントのデザイナーふたりが、「コム・デ・ギャルソン」のファッションショーの選曲を担当し、社会問題にも積極的に関わる音楽プロデューサーと、ファッション、引いてはカルチャー全般と政治の関係について話します。

第2部は「引き算の美学」。ショートフィルムを得意とする映像作家の新レジデントが、短いフォーマットの可能性と限界について、無印良品のコンセプトづくりに参画し、コピーも手がけたクリエイティブディレクターにして現代アートのキュレーターと、「用の美」や「Less is more」という哲学について意見を交わします。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



**ミルコ・ヒンリクス** (デザイナー)  
**Mirko Hinrichs** (Designer)

1977年生まれ。建築学を学んだ後、舞台美術家として、様々な劇場やクリストフ・シュリンゲンジーフなどのアーティストとも仕事をし、展覧会デザイナーとして、ベルリンのフォトグラファー・エージェントであるオストクロイツなどの展覧会も手がけた。



© Mirko Hinrichs & Silvio Scheller

**シルヴィオ・シェラー** (デザイナー)  
**Silvio Scheller** (Designer)

1972年生まれ。ベルリンで独文学と服飾デザインを学び、スタイリスト及びビデオプロデューサーとして、Nena等ドイツ音楽の著名アーティストとの仕事を手がける。また、アパレルパートナー Peek & Cloppenburg と共同で独自のファッションブランド The Laugh&Peas Company を立ち上げた。

ヒンリクスとシェラーは2011年に、モード、建築、デザイン等の分野で虚飾を排し、認識と輪郭の必要性を追求する「BIEST」社を設立。ヴィラ鴨川滞在中のプロジェクト「ノイパウ」では、日本の加工・製造技術に依拠しつつ、「巻物」による動きの自由と、衣と住という要素を満たす作品を創作する予定。biestberlin.com



**桑原 茂一** (選曲家、free paper dictionary 編集長)  
**Moichi Kuwahara** (Musikproduzent, Autor)

1973年米国『ローリングストーン』日本版を創刊号から運営、1977～97年「コムデギャルソン」のファッションショー選曲を担当した。1982年日本初のクラブ「ピテカントロプス」をオープン。1988年にクラブキング社設立、『free paper dictionary』を創刊。1995年阪神淡路大震災後「SHIBUYA FM」設立に参加、「club radio dictionary」を放送した。2001年米同時多発テロを機に坂本龍一氏が監修する「非戦」に参加、続いて「笑いで世界の真実を知る」コメディ制作集団「コメディ・クラブキング」を開始。2015年より桑原茂一事務所で個人的な活動を展開している。freepaperdictionary.com



© Sven Zellner

**ダニエル・ラング** (映像作家)  
**Daniel Lang** (Filmemacher)

1977年生まれ。英国のレディング大学で映画と演劇を、ポツダム・パーベルスベルクで映画/テレビの監督課程を学び、映像作家の活動の傍ら、ミュンヘンのテレビ映画大学で学術・芸術研究員を務める。「female/male」が2005年のドイツ短編映画賞を受賞、「Dog」が2006年の同賞にノミネートされた。ヴィラ鴨川滞在中は、芸術としての陶芸、日本人と陶芸の関係をテーマに、文化遺産から現代の使われ方までリサーチし、東洋の日用品の世界観を西洋の視聴者にも分かりやすく表現した短編映画の制作に取り組む予定。daniel-lang.com



Photo: Yuriko Takagi

**小池 一子** (クリエイティブディレクター、十和田市現代美術館館長)  
**Kazuko Koike** (Creative Director)

1983年～2000年日本初のオルタナティブ・スペース「佐賀町エキジビット・スペース」創設・主宰。現代美術の新しい才能を国内外に送り出した。2011年より「佐賀町アーカイブ」でエキジビット・スペースの活動と資料、作品コレクションを検証しつつ次の展開を期している。2012年21\_21 DESIGN SIGHT「田中一光とデザインの前後左右」ほか公私立の美術館への企画参加、編著書多数。2016年4月より十和田市現代美術館館長。「無印良品」創業以来アドヴァイザリー・ボード。武蔵野美術大学名誉教授。towadaartcenter.com



**小崎 哲哉** (司会、構成)  
**Tetsuya Ozaki** (Moderator)

1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、編著書『続・百年の愚行』を刊行。realkyoto.jp



主催・お問い合わせ

**Goethe-Institut Villa Kamogawa**

京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分  
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



**GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA**